

広島大学校友会だより

第10回 広島大学
ホームカミングデー
平成28年11月5日(土)

先輩インタビュー

蝶理株式会社 代表取締役社長

先瀨 一夫さん (1980年工学部卒業)

校友会SUPPORT FILE

アメリカンフットボール部 RACCOONS

学生ボランティア団体 Lingua franca

SUPPORT FILE PLUS

ボランティアへの3つのQuestions



Hiroshima University Alumni Association

広島大学校友会

第10回 広島大学
ホームカミングデー

HCD 10th

11月
5日(土)

平成28年11月5日(土) 広島大学東広島キャンパス



サタケメモリアルホール

オープニングセレモニー



時 10:00~10:50

挨拶
広島大学長
広島大学校友会会長 越智 光夫

学長表彰、教育賞 授与式

大学歌合唱



司会
久保田 夏菜さん
フリーアナウンサー
元中国放送アナウンサー
元テレビ愛媛アナウンサー
(平成20年度文学部卒)

「IMCCD 地雷処理・地域復興支援の会(カンボジア)」広島支部長

HCDスペシャル

オペラ歌手

中丸 三千繪さん
オペラ&トークショー



時 11:00~12:00

中丸 三千繪さんプロフィール

なかまる みちえ/桐朋学園大学卒業、同大学研究科修了。大学1年よりニューヨーク、ザルツブルクに留学し、ジュリアード音楽院、モーツァルテウム音楽院で研鑽を積む。1986年、小澤征爾指揮による新日本フィルハーモニー交響楽団の「エレクトラ」で日本デビュー。1987年にイタリアに渡り、1988年世界三大テノールの1人「ルチアーノ・パヴァロッティ・コンクール」や「マリア カノリア国際声楽コンクール」で優勝し、『ラ・ボエーム』でヨーロッパデビュー。1989年には『愛の妙薬』でパヴァロッティと共演し米国デビュー。その後数々の国際コンクールで優勝を重ねて1990年「マリア・カラス・コンクール」ではイタリア人以外で初めて優勝し、現在でも唯一の日本人優勝者である。ブラジド・ドミンゴ、ローリン・マゼール、ケント・ナガノ、リッカルド・ムーティ等と共演しミラノスカラ座をはじめ国際的に活動。オペラから歌曲、シンフォニー、モノオペラ等幅広いレパートリーをもつ。フィルハーモニア管弦楽団、スロヴァキアフィル、ポーランド国立歌劇場、ベルリンフィル、プラハ国立歌劇場などと来日。近年はモノオペラ「悲嘆」の世界初演。2015年10月にはプラハ国立歌劇場の椿姫に出演。2006年、イタリア大統領より「コメンダトール」を叙勲されている。

学部・研究科企画 等

総合科学部・総合科学研究科

「留学プログラム説明会と 留学報告会」

時 13:00~14:10

場 総合科学研究科第1会議室

広島大学の海外研修・留学プログラムをご紹介します。学生生活や文化的な違いなどについて、海外留学から帰国した日本人学生と広島大学に留学してきた外国人留学生が報告します。学生はもちろん、一般の方にもご参加いただけます。

「総合科学部後援会総会」

時 14:20~15:00

問 総合科学研究科支援室
☎082-424-6303・6306

文学部・文学研究科

「文学部で味わう 世界のティータイム」

時 14:00~16:00

場 文学研究科 講義棟1階学生ロビー

文学部・文学研究科で学ぶ外国人留学生が、母国のお茶とお菓子を振る舞いながら、言葉や生活・文化をご紹介します。気軽に異文化を体験できると、一般の方にも好評をいただいています。

問 文学研究科支援室
☎082-424-6604

教育学部・教育学研究科

「共にまなぶ・はたらく・くらすⅡ」

時 10:00~16:00

場 学生プラザ1F東側フリースペース

特別支援教育学講座や附属東雲小中学校で取り組んでいる内容を中心に展示・発表・体験を行います。一般社団法人日本福祉用具供給協会中国支部広島県ブロックの協力を得て、最新の福祉機器・用具の展示・体験も行います。

問 特別支援教育学講座事務局
☎082-424-7180

「人間生活を考える ~暮らしの伝承と創造~」

時 11:00~16:00

場 教育学部 L棟206講義室

人間生活教育学講座の研究成果を紹介し手作り作品を展示します。教育学部人間生活系コースと大学院人間生活教育学専修同窓会が60周年を迎えるにあたり、同窓会との共催で行います。

問 人間生活教育学講座
☎082-424-6858・6861

オペラ「ヘンゼルとグレーテル」

時 15:00~17:00 (14:30開場)

場 教育学部 音楽棟演奏室 (F101)

教育学研究科、教育学部の院生、学生、教員が演奏のみならず、小道具、大道具、舞台装置、照明、衣装などを協力して製作し、オペラを上演します。(国立大学フェスタ参加作品)

問 音楽文化教育学講座事務局
☎082-424-6834

師弟対談

「人がスポーツを育て、 スポーツが人を育てる」

時 16:45~18:00

場 教育学部 K棟201講義室

為末 大さん

河野 裕二さん(体育科24期生)

陸上トラック種目の世界大会で日本人初のメダルを獲得した為末大さんと、中学校時代の恩師である河野裕二先生に語りあっていただきます。健康スポーツ科学講座が同窓会との共催で行います。

問 体育科同窓会事務局
(健康スポーツ科学講座事務局室内)
☎082-424-6848

法学部・経済学部・社会科学研究科

各部局長挨拶

時 10:30~10:45

講演会

「有期・パート・派遣をめぐる 近年の労働法改正について」

時 10:45~12:15

場 法学部・経済学部講義棟B351大会議室

講師: 法学部長 三井 正信

懇親会

時 12:20~13:00

場 法学部・経済学部 研究棟A102中会議室

問 社会科学研究科支援室
☎082-424-7203

サタケメモリアルホール前広場

HCDマルシェ 連携市町の物産展

時 11月5日(土)、6日(日) 10:00~17:00

校友会学生チーム おもてなし企画

時 10:00~17:00

サタケメモリアルホールロビー

「広島大学の歴史」展

時 10:00~17:00

学生会館レセプションホール

懇親会 会費制(5,000円)

時 15:30~17:00

東広島天文台観望会

時 17:00~19:00

場 東広島天文台 ※マイクロバスで送迎



定員50名
当日、総合受付にて
16:30~受付開始

大学祭

時 11月5日(土)、6日(日)

場 スペイン広場周辺

E-storm(教育学部祭)

時 11月5日(土)、6日(日)

場 教育学部周辺

霞地区合同

医学部・歯学部・薬学部・医歯薬保健学研究所
原爆放射線医学科学研究所・大学病院

時 平成28年11月12日(土) 15:00~16:30

場 広仁会館 大会議室(広島大学霞キャンパス)

講演会

「ゲノム編集とはどんな技術なのか？」

—治療や品種改良での大きな可能性—

講演者 山本 卓氏

広島大学大学院理学研究科 教授

問 霞地区運営支援部 ☎082-257-5013

11月
12日(土)

東千田地区 法務研究科

時 平成28年11月12日(土) 14:00~16:00

場 東千田未来創生センター

女性弁護士によるパネル討論会

「現代社会に挑むプロフェッショナル

—自己実現と女性法律家—

問 東千田地区支援室 ☎082-542-7014

フェニックスオペラ

ヴェルディ作曲 リゴレット

時 平成28年11月13日(日) 15:00開演

場 広島大学サタケメモリアルホール

主演 原田 康夫氏

元広島大学長・広島大学同窓会会長

存命の世界最高齢のオペラ歌手(ギネス世界記録申請予定)

11月
13日(日)
広島初公演

理学部・理学研究科

理学部生物科学同窓会 記念講演会

講師:藤本 正昭氏

(元広島大学理学部生物学科助教授、島根大学名誉教授)

(昭和40年学部卒、昭和43年修士修了)

演題:「私が出会った人たち」

時 12:30~15:30

場 理学研究科 E棟210講義室

12:30 開会

12:45 学部長による学科紹介

13:00 講演会

14:00 懇親会

問 理学研究科生物科学専攻

☎082-424-7439

地球惑星システム学専攻 「建設・地質コンサルタント会 社に勤務するOBを招いた ホームカミングシンポジウム」

時 13:00~16:00

場 理学研究科 B棟603講義室

坂島俊彦氏(平成11年度修了)、藤井正博氏(平成20年度修了)、上田祐子氏(平成21年度修了)の3名を講師としてお招きします。

問 理学研究科地球惑星システム学専攻

☎082-424-7484

工学部・工学研究科

「保護者のための オープンキャンパス」

時 午前の部 10:00~12:00

午後の部 13:30~15:30

※内容は午前、午後とも同じ

場 工学研究科220講義室 他

学部2年・3年と修士1年の保護者を対象に今後の進路選択の一助としていただく企画です。参加には事前の申し込みが必要で、対象の保護者の方へは別途案内状をお送りします。

①全体会

- ・副研究科長講演「工学部の沿革と現状」
- ・博士課程後期在学者による講演(博士課程後期への進学について)
- ・博士課程前期在学者による講演(就職活動の経験談)
- ・若手のOB教員による講演
- ・副研究科長講演「大学院教育の現状と今後」

②類・専攻別行事(研究室見学・座談会等) (1時間程度)

問 工学研究科支援室

☎082-424-7519

生物生産学部・生物圏科学研究科

第9回「食料・環境問題 国際シンポジウム」

時 10:30~16:30

場 生物生産学部C206講義室

「東南アジア・アフリカ諸国を取り巻く課題と

持続可能な食料生産」をテーマに、東南アジア・アフリカ諸国における食料生産環境の現状と課題、将来展望を議論します。講師にはコンケン大学(タイ)、フィリピン大学ビザヤ校(フィリピン)、ほかにエジプトの先生方をお招きする予定です。

問 生物圏科学研究科支援室

☎082-424-7904

先端物質科学研究科

時 11:00~16:30

場 先端物質科学研究科

研究室公開

量子物質科学専攻(1研究室)

分子生命機能科学専攻(2研究室)

半導体集積科学専攻(1研究室)

パネル展示

研究成果などのご紹介

講演会

分子生命機能科学専攻、半導体集積科学専攻の卒業生などによる講演会を予定しています。

問 先端物質科学研究科支援室

☎082-424-7006

校友会の
視点

課外活動の新しい潮流、社会系サークル ボランティアへの3つのQuestions

広島大学校友会は、教育研究活動支援、課外活動支援を通して在学生の自主的な活動をサポートしています。支援は各団体の申請によりますが、近年目立って増加しているのが「ボランティア」を掲げる団体。体育会系でもない、文化系でもない……しいて名づけるなら“社会系”の課外活動です。先輩が存在しない団体も多く活動資金にあてるため支援申請をする団体もある一方、まったく申請をしない団体もあります。在学生たちはなぜボランティアをするのか、資金がなくても活動はできるのか、アンケートと3団体の代表者取材から探ってみました。

(アンケート、取材団体には教育研究支援助成団体も含まれます)



自然体験活動サークル 学びの里の活動風景

Q01 「ボランティア」って、なに？

「ボランティア活動」と聞いて思い浮かぶのは、地震や豪雨の被災地で活動する人の姿。いいえ、広島大学で活動するボランティア団体はそれだけではありません。地元農家の手伝い、平和推進活動、子育て支援など活動もさまざま。ただ、共通しているのは「自主的な奉仕活動」ということです。



広島大学もボランティアを推進しており、ボランティア団体が自由に使えるボランティアセンターを設けている



センターにはボランティア募集などの情報が掲示されており、思い立ったとき単発でも参加できる。



V-pro主催のボランティアサークルの交流ミーティング。V-proは広島大学のボランティア団体の情報をまとめて発信する団体。



Q02 活動資金はどうしてる？

学生の奉仕活動なので「資金はメンバーの自己負担」という団体がほとんど。自己負担を軽減するため、大学祭やゆかた祭(広島大学の学生イベント)で物品を販売して収入を得ています。中には、「国や自治体などと連携して活動しており、補助金や謝礼を受けている」団体もあります。

Q03 活動のモチベーションは？

人のために働くのがボランティア。「自分には何のメリットもないのになぜ一生懸命になれるのだろう」と思う人もいることでしょう。しかし、実際に活動している在学生の口からは、「自分にプラスになっている」「やりがいがあるから活動している」という声が聞かれました。

【アンケート協力ボランティア団体】

ボランティア情報室 V-pro を通してアンケートを実施。主に活動資金について回答を得ました。これ以外にも V-pro が把握している団体はあります。

町おこし団体あちこち	東広島市河内町で町おこし
えこ・ページ	不要になった家具を学生から譲り受け新入生に安価で販売
東広島地区 BBS 会	児童自立支援施設や福祉施設での子どもたちの支援
安芸の子 リーダー養成協会 大学生カウンセラーグループ KAPPA 組	子どもたちを支援する「安芸の子」のキャンプカウンセラー
自然体験活動サークル 学びの里	NPO 法人と連携した環境教育活動やその他地域交流
広島大学献血推進隊	学内献血活動の推進
学生まちおこし団体ふくふく	東広島市福富町の町おこし
NPO 法人ドットジェイピー 広島大学スタッフ団	議員インターンシップや大使館インターンシップのとりまとめなど
からくわ丸広島部隊	気仙沼市唐桑町の復興まちづくり活動を行う
Smiles Production	インドの子どもたちの生活と教育を支援するために日本でファンドレイズ
OPERATION つながり	東日本大震災の復興支援からスタートして広島、インドへ
Lingua franca	被爆者と若者が語る場「はちろくトーク」を開催
V-pro	広島大学のボランティア情報室
西条 LOVERS	「学生と地域住民協働のまちづくり」を推進

(順不同)

在學生に聞く ボランティアのリアル

Smiles Production

日本で支援金を集め、貧しくて学校に通えないインドの子どもたちをサポートする。支援金を集めるために、インドの物産を販売し有志者の寄付を募る。

Smiles Production

代表

栗原 響さん
(経済学部3年)



利他であり利己でもある

僕自身は、大学在学中に海外に関わることをしたいと思っていたところにインドの教育支援をしていた先輩に出会ってこの活動に入りました。インドにも行ったし、子どもたちにも会ったし、この活動をして良かったと思っていますが、中には渡航費用がなくてインドに行ったことがないというメンバーも、結構います。でも、彼らは「学生同士で話し合っただけで企画を練って、それを実行に移すという経験ができる」と言ってくれます。ボランティアは「利他の精神」と言われるけど、僕自身も含めて「利己的」な面もあるのではないのでしょうか。ただ、海外で活動するのは費用がかかるというだけでなくリスクもあり、「誰でも気軽に」と誘う気にはならない。「志」は必須だと思っています。



からくわ丸広島部隊

気仙沼市唐桑町を舞台に、地元の若者と「よそ者」が一緒に街づくりを考えるプロジェクトに参加。公募で集めた学生と唐桑町でワークキャンプを行っている。

からくわ丸広島部隊

代表

谷本 奈々さん
(経済学部3年)



非日常の世界は人間を育てる

入学して1年間、チャラチャラと遊んで暮らしたんですよ(笑)。「これじゃいけない!」と思い立って広大な学生情報サイトMOMIJIに掲載されていたキャンプに参加したのがきっかけ。全国から若い人が集まって「唐桑半島に震災前よりいいまちをつくろう」と活動している団体なので、自分では「ボランティアしてる」という意識はあまりありません。唐桑は「非日常」の世界。被災したお年寄りの話を聞いたり、移住して唐桑の未来づくりに参加している若い人の本気に触れたり、知らないことを知って考えるようになっていく。以前の私では考えられない充実感を感じます。災害が多発する日本で、被災した地域がそれをどう乗り越えていくかは唐桑だけでなく全国の課題でもあると思います。



西条 LOVERS

コンセプトは「大学生と地域をつなぐ」。東広島市や地元の人と協働し、酒蔵でコンサートや映画上映など、大学生ならではの企画を提案・実施する。

西条 LOVERS

代表

藤原 佳祐さん
(総合科学部3年)



楽しいから一生懸命に

西条 LOVERSは僕が立ち上げた団体です。僕は、みんな顔を知ってるような小さなまちで育ったので、大学生だけのコミュニティにストレスを感じました。おじいちゃんやおばあちゃん、それに学生、いろんな世代の人が交流するのが地域ですから。幸い、東広島には酒蔵通りという「場」があり全国への発信力もある。ここで、学生にしかできない企画を展開し、まちづくりに関わっていききたい。さらに、市役所、酒蔵、大学、いろいろな人を巻き込んで新しいまちを創造していくような仕組みをつくっていきたくいです。取り分け大学生。楽しいから一生懸命になって、一生懸命になるから楽しい、気がついたら「まちづくりプレイヤー」になっている。そんな仕組み作りを目指しています。



中四国エリアトップの実力を武器に 全日本選手権の舞台を目指す

第9回
課外活動援助団体

アメリカンフットボール部 RACCOONS (ラクーンズ)



入部時は体の線が細かった部員も、4年経つと立派な体格に。日々のトレーニングで筋肉を鍛え上げる



主将 中島 良彰 (工学部4年)
ポジション: OL (オフェンスライン)
/ DL (ディフェンスライン)



広報担当 川本 駿佑 (文学部4年)
ポジション: WR (ワイドレシーバー)

リーグ最多優勝の歴史を引き継ぐ

創部から39年。1部リーグに所属する「アメリカンフットボール部RACCOONS」は、現在51人の部員（マネージャーを含む）が一体となり、広島大学北グラウンドを拠点に週4日1日3時間のハードな練習を重ねています。グラウンドを使わない日も、多くの部員は自主的に体育館でウエイトトレーニングを実施。その練習量は確実に成果として表れており、1980年の中四国秋季リーグ発足以来17回と、史上最多の優勝回数を誇っています。2015年も2年連続となるリーグ優勝のタイトルを手にし、校友会より「課外活動援助金」を授与されました。しかし、その後の「全日本大学アメリカンフットボール選手権」の初戦で、惜しくも九州代表校に敗れています。

カラダ5割+アタマ5割のスポーツ

「2年続けて同じ大学に負けたのですごく悔しい。今年の目標は打倒九州です」。そう意気込むのは、主将の中島さんと広報担当の川本さん。強豪校を倒すには、オフシーズンの体作りはもちろん、相手チームを熟知することも重要です。マネージャーが対戦大学まで出向いて録画してきた試合を見たり、これまでのプレーを振り返ったりしながら、

戦略ミーティングを開始します。

「アメフトはよく、カラダ5割アタマ5割のスポーツと言われます。体格が良い選手がぶつかっていきただけでは勝利を呼び込めません。状況を冷静に見極める判断力や、メンバーに指示を出すリーダーシップ能力を持った選手も必要です」と川本さん。運動能力と知力をバランスよく発揮して勝つ！それがアメフトの醍醐味だそうです。

ポジション多彩！個々が強みを発揮

今春、「RACCOONS」には16人の1年生が入部しました。アメフトはポジションやルールが複雑で難しく思えますが、「多くの部員はルールなんて分からずに入部してきます。サッカーやバスケットなど、他のスポーツ経験者がほとんどです」と中島主将。「でも、1年ぐらいかけて知識を増やし、技術を磨いていけばいいし、それぞれの得意分野（判断力がある・足が速い・パスがうまいなど）にぴったりのポジションがあるので、経験やフィジカルは全く関係ないです。どんどん門を叩いてほしい」と川本さんが続けます。

週の半分以上を一緒に過ごす部員とは、学部の友達以上に親しくなるというアメフト部。その連帯感が昨年の雪辱を果たし、全国の舞台でも大いに暴れまわってほしいものです。



パス、キャッチ、ぶつかり合いなど、ワイドレシーバーの練習風景。これらのポジション練習の後、ミニゲームを行うことも



俊足で体幹も強い、優れたランニングバック(ボールを持って走るポジション)の選手が在籍。今秋の戦いのキーマンになりそうだ

対話を重ねることに着目した 温もりのある被爆者とのトークイベントを開催

第9回
ドリームチャレンジ受賞

Lingua franca (リンガ・フランカ)



2015年の「はちろくトーク」で証言した被爆者の方と



今年(2016年)の「はちろくトーク」。学徒動員で被爆した梶本さんの話は、知っているつもり「惨状」を超えるなまなましさで聴く人の心に迫る



写真左から原口 梨央、田中 智子、畑野 史奈、本山 未菜美(ともに総合科学部3年)。長崎県、愛媛県、島根県とみんな県外出身者。「広島に来たからこそ、広島でしかできないことをしたいです」

2014年8月6日から本格始動

広島大学生と、県内複数の大学の学生メンバーで活動中の「Lingua franca」。主に年1回の被爆証言イベント「はちろくトーク」の開催を通して、若い世代が平和について考えるきっかけを提供しています。

立ち上げたのは3学年上の先輩たち。2013年に被爆証言会「はちろくワンナイト」を開催しましたが、語り部の話を聞くだけで終わってしまい、学生が原爆や平和を自分の問題として捉えきれませんでした。そこで翌年からは「対話する」ことを柱とするトークイベントに修正。「高齢化が進む被爆者の生の声を広めたい」という学生、「自分たちが今できることを手伝いたい」という学生も仲間に加わり、誰でも気軽に参加できて、会場全体で感想や意見を交換しやすい現在のスタイルになりました。

気負わずに参加できる被爆証言会

先輩の想いを引き継ぐ広大生は現在6人。他大学の学生4人も仲間に加わり、イベント本番に向けて定期的なミーティングを開いています。「開催日までにもっとも心を配るのは、被爆証言して下さる方との信頼関係の構築です」とメンバーの原口さん。「はちろくトーク」は被爆者とインタビューアとの

対談形式で進行します。聴きたい話を引き出すには、事前に何度か交流の場を設け、良いコミュニケーションを築いておかなければなりません。

また、「8月6日に平和を考える」という重いテーマゆえに、敬遠しがちな人も多いそう。だからこそ、気軽に「行ってみよう」と思える空間づくりに配慮します。例年、ドリンク片手に話を聞けるカフェなどを開催場所に選んでいます。

無関心だった若い世代がターゲット

ドリームチャレンジ賞の助成金を、会場費や広報用の資料制作費に充て、集客にも力を入れた結果、2015年の「はちろくトーク」には、予想を上回る100人近い来場がありました。しかし課題も残ります。イベントのメインターゲットである、若者の来場者数が

伸びないこと。「被爆証言に全く興味がない若い人の心を掴む工夫を、もっと凝らさないと…」とメンバーは口を揃えます。

「Lingua franca」とは「共通のことば」という意味をもつイタリア語。被爆者と若者の架け橋となり、そこに世代を超えた同じ想いが生まれることを願って、彼女たちのチャレンジはまだまだ続いていきます。



2週間に1回のミーティング。証言者に具体的にどんな話を聴きたいか、イベントの新たなPR方法はないかなどの意見・情報を交換する



「はちろくトーク」の様子。被爆者との1時間余りの対談の後、席が近い参加者同士でグループを作り、感じたことを自由に語り合った

蝶理株式会社 代表取締役社長

さきはま かずお

先濱 一夫さん

(1980年 工学部卒業)

「**「廣大ヨット部卒」。**
それでここまでやってきた。」



先濱社長のインタビューには2012年入社の方井東純平さんも同席して始まりました。「わしゃあのお」は廣大の標準語じゃろお」とおっしゃる社長に「そんな言葉、誰も使いませんよ」と井東さん。同じ廣大応用化学の卒業生ですが、2人の間には30年以上の時の流れがあります。しかし、「自分のままでスナリ入っていった」という“蝶理の社風”は30年前も現在も、変わらないようです。

恩人はヨット部後輩

大学時代の恩人がいるんですよ。ヨット部の後輩、西塾くん。実は、私はヨットを口実にして実験をサボっていたので進級できなかつた。で、留年したおかげで、1年後輩の西塾くんと一緒になったわけですが、彼が木曾義之先生の研究室を見つけてくれたんです。「先濱さん、木曾先生なら先濱さんでも卒業できますよ」ってね(笑)。

先生にも温かく迎えていただいて、おかげで卒業できました。

西塾くんたちは4年の時、インカレの

団体で全国優勝したんですよ。廣大ヨット部が団体で優勝したのは後にも先にも昭和54年だけ。留年したおかげで、僕はこの優勝を見ることができました(笑)。

地獄の週末を乗り越えた

国立大学が、部員全員が高校時代からヨット乗ってるような私立の大学に伍して勝つんだから、そりゃあ練習はきつかったですよ。そうと分かっていたら入らなかつた(笑)。

ヨットって、何となく、女の子にモテそうなイメージがあるじゃないですか。だから、“新勧”でも人気で大勢入るん

です。みんな、ヨットなんて乗ったことないんですよ。それなのに、先輩が「コンパも多いよ」とささやくものだから、ついその気になって入ってしまう。ところが、現実は大違い。

当時の艇庫は元宇品にあって、これが宇品の電車終点から30分ほど山越えた場所なんです。艇庫にはトイレも風呂もないから、メシや風呂のたびに山道を歩いて宇品まで往復しなければならない。土曜日の授業が終わって海に出るんですが、疲れて帰って船を引き上げ洗ってから宇品往復でしょう。シュラフで寝て、翌朝は6時起きで宇品までランニング。メシ食って、トイレに行って

昼飯のパンを買って戻り、夕方5時まで船の上ですよ。毎週末それでしょう。先輩は怖いし、オンナツ気なんかないし、話が違う。20人以上入ったけど、最後は5人しか残らなかった。

でもね、陸に上がればいい人ばかりなんです。アパートに戻れば楽しい。きつい練習を一緒に乗り越えて最後まで残った5人は“生涯の友”ですね。今でもよく会っています。

居心地のいい会社

そんな生活でしたから就職活動はともにやっていない。助け船は木曾先生です。「蝶理という会社の同期生から学生を紹介してくれと頼まれたんだが」と、話が来ましてね。名前も知らない、何をしてる会社かも分からないけど、とりあえず行ってみようかと、大阪の本社に行っただけですよ。ところが、何とか、雰囲気はすごくいい。他にやりたいことがあるわけでもないで、「お願いします」と。

ちょうどオイルショックやら何やらで、蝶理自体、5年間、新卒者を採用していなかったということもあって、すごく温かく迎えてもらっていてね。国立大学の体育会出身というだけで認めてもらったところはあるかもしれませんね。

配属先の希望も特にありませんでした。入社したとき、当時の社長がこう言ったんですよ。「先濱くんは“廣大ヨット部卒”ということでもいいんだよね」(笑)。本当に居心地がよかったですよ。まさに、「水が合った」んでしょうね。

大阪の商売を中国で

商社の仕事は“商売”です。商品をメーカーから仕入れて、必要とする人に売る。シンプルに表現すればそれだけです。でも、他の会社も同じ商品を持っているから、いくらで売るか、価格以外の付加価値をどうつけるか、それが商売。どうやって「よし、先濱から買おう!」とお客さんに言ってもらおうか、知恵を絞るわけですよ。

よかったなと思うのは、入ってすぐデリバリーをやったこと。お客さんの注文を

●その頃の 広島大学ヨット部

昭和54年、第44回全日本学生ヨット選手権(インカレ)で広島大学ヨット部が総合優勝。スナイプ6位、470級では2位と大健闘した。

写真提供: 広島大学ヨット部
しづき会



受け、伝票を書いて、倉庫から商品を取ってきて届ける。それだけのことだけど、商品の流れを把握することができました。

もう一つよかったのは、その後、大阪の営業に行ったことね。中小企業の社長さんたちに揉んでもらいましたよ。大阪は商売人の町ですから。そりゃ、丁々発止。泥臭い商売をみっちり勉強させてもらいました。商売の基本は人と人の交渉ですからね。それをたたき込まれたおかげで、海外に出ても自信を持ってやって行けました。

地球で通用する商売

蝶理は僕が入社する前から中国貿易をやってきたんですよ。僕は40歳を過ぎてから初めて中国に行ったので、同期では遅い方です。

驚いたのはね、中国でも、大阪でやって来たことがそのまま通用すること。中国語はできなかったけど、仕事の現場では流れがだいたい分かるんです。商売の土台ができていれば、世界は恐るに足らず。もちろん、その国の特殊性はありますがね。

今、化学品は90%以上が海外取引です。私が20年近くかけて学んだことを、今は若いうちから、頻繁に現地に出張したり、1年間の海外研修を経験させたりと、教育の方法もずいぶん変わりました。井東くんなんか、年に10回以上海外に出ているでしょう。

ただ、外国語も国際経験も大事だが、それよりも大事なのは人と人のつながりをつくること。今なら“コミュニケーション力”ということでしょうか。

私の場合、すべてが廣大ヨット部で鍛えられたと思っています。



■先濱一夫さんのプロフィール

1956年生まれ、山口県上関町出身。広島大学工学部応用化学科(現在の三類)を卒業後、蝶理(株)へ。

■蝶理株式会社

繊維・化学品・機械の専門商社。江戸時代の末、京都西陣の生糸問屋として創業して以来150年。現在では中国を中心にアジア、米国、欧州、中南米に拠点を置き、グローバルにビジネスを展開している。

■井東 純平さん(写真左)

広島大学工学部第三類卒。入社5年目、日本と中国を往来して化工原料のビジネスを行っている。「大学時代の一番の心残りは海外を経験しなかったこと」と言う。



■取材の後で

妹尾 心(総合科学部3年/写真右)

大きなガラス窓に囲まれた明るい部屋でお話をうかがいました。先濱社長はこの部屋のような明るくて開放的な方。井東さんも自然体で話に加わってくださり、お二人が蝶理さんの社風を体現しておられるように感じました。

校友会レポート

海外校友会

海外校友会

カンボジア校友会が発足

広島大学の16番目の海外校友会として、広島大学カンボジア校友会が発足しました。平成28年3月12日、プノンペン市内のホテルに約50人が参加して設立会合が開かれました。広島大学からは越智光夫学長（校友会会長）、佐藤利行理事・副学長、高田隆理事・副学長などが参加しました。

カンボジアは、長い内戦を経て誕生して20年余りの国。産業やインフラの整備が進んでおり、日本は、そのための最大の支援国となっています。しかし一方、内戦による人材不足も尾を引いており、高等教育の場として広島大学がサポートできることも少なくありません。

「カンボジア校友会の設立をきっかけとして同窓生同士の親睦を深めるとともに、日本や広島大学へ留学を希望する学生の手助けなど、日本とカンボジアとの架け橋になってほしい」という越智学長の挨拶にも、そうした背景が感じられました。

その後、役員を選出を行い、カンボジア教育省高等教育局次長のニス・ブンライ氏（教育学研究科出身）を選出しました。ブンライ会長には、越智学長から「広島大学国際交流アンバサダー」の認定状が手渡されました。



カンボジア校友会設立会

国際交流アンバサダー

広島大学の良さやブランドを国際的に発信していただくために、帰国留学生の中から学長が委嘱するものです。カンボジア校友会設立にあわせて越智学長は東南アジア各国の広島大学校友会を訪問し、ベトナム校友会長のグエン・ティエン・ルック氏（ベトナム国家大学ホーチミン市校人文社会科学部日本学部長）とミャンマー校友会長のチョー・チョー・カウ氏（東ヤンゴン大学学長）に「広島大学国際交流アンバサダー」を委嘱しました。



国際交流アンバサダー授与式（越智学長とカンボジア校友会ブンライ会長）



国際交流アンバサダー授与式（越智学長とミャンマー校友会チョー・カウ会長）



国際交流アンバサダー授与式（ベトナム校友会ルック会長と越智学長）

東京広大会

新卒者と若手OBの懇談会

「ハジメの一步」

首都圏で働く若い広島大学卒業生を励まそうと、広島大学東京オフィスが企画した「新卒者と若手OBの懇談会～東京広大会 ハジメの一步～」。6月11日(土)の午後3時から田町駅前のキャンパス・イノベーションセンターで開催しました。

参加したのは、今年春卒業したばかりの社会人1年生や、すでに欠かせない戦力として活躍している若手社員など約60人。生物圏科学研究科、学長特命補佐（グローバル広報担当）長沼毅教授の講演「ブラックに輝いた社会人1年生」や、「働くとは」と題した卒業生などによるパネルディスカッション、そしてその後の交流会……と、2時間半にわたって大いに盛り上がりました。

「東京に知り合いがあまり居なかったがつながりができた」「ぜひ定例化してほしい」と好意的な意見とともに、会場案内など課題指摘もあり、「これを参考にしながら次の企画を」と、東京オフィススタッフは張り切っています。



パネルディスカッションのパネラーは右から長沼毅教授、松下裕さん（総合科学部1983年卒／日本電気株式会社 執行役員）、氏田いづみさん（総合科学部2001年卒／株式会社ジャパネットたかた）、大山文望さん（教育学部2014年卒／独立行政法人日本学術振興会）、モデレーターは粟田あやさん（総合科学部2001年卒／株式会社アイクリエイト 代表取締役）



参加者のほとんどが20～30代。熱心に耳を傾けていた



長沼毅教授の講演は「ブラックに輝いた社会人1年生」



パネルディスカッションの後は交流会



当日ご参加いただいた皆さん

首都圏 広大会

気軽に繋がろう メーリングリストに登録を

「東京では広大卒業生に会うことがない」と思っている方のために、首都圏で参加できる広大出身者の集まりをご紹介します。

◆「東京広大会 Youth」

20代の広大卒業生を中心としたネットワーク。「気軽に集まって情報を交換し大学の話をしよう」と、3カ月ごとに、食べ会、飲み会を開いています。4月開催の「もんじゃ焼きを食べながらしゃべろう会」には31人が参加。懐かしい顔、新しい顔が集まって、池袋のもんじゃ焼き店を席卷するほどに盛り上がりました。

20代の広大卒業生の皆さん、メールで下記にご連絡ください。



【連絡先】

祖一澄人 (平成25年経済学部卒) ss0822ss@gmail.com

◆「オトナ広大会」

30～40代（“気分”年齢を含む）が中心。やはり「気軽に集まって話をしよう」という集まりです。

◆『広島大学関東通信』

広島大学東京オフィスは、広島大学のさまざまな情報をおとどけるメールマガジン『広島大学関東通信』を発行しています。メーリングリストへの登録をお願いします。

【連絡先】

北池ゆかり (平成10年文学部卒)
TEL 03-5440-9065 メール koyutk@hiroshima-u.ac.jp

お知らせ

PC、スマホでコミュニケーション 会員 Web サイト

インターネット上に広島大学校友会会員だけの「広島大学校友会会員用Webサイト」が誕生します。会員相互につながるSNS（ソーシャルネットワークサービス）で、スマートフォンやパソコンなどの情報端末でアクセス可能です。会員の検索はもちろんのこと、学部・学科、居住地域などを指定しての案内連絡も可能です。（個人情報の表示・非表示設定も可能です）

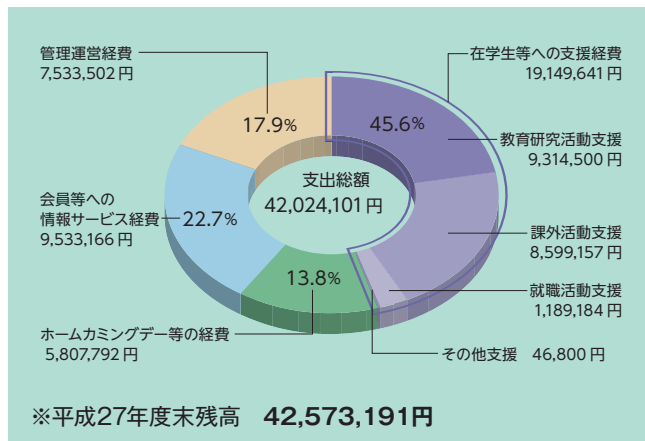
このサービスのスタートは平成28年12月頃の予定です。詳細は校友会Webサイトにてお知らせしていきます。

校友会Webサイト：<http://www.hiroshima-u.ac.jp/koyukai/>

決算報告

●平成27年度収支状況 (平成28年4月1日現在)

- 収入 28,419,422円
- 支出 42,024,101円



●入会状況 (平成28年5月13日現在)

個人会員 17,764名

(在学生7,234名, 卒業生9,570名, 教職員960名 (離職者含む))

団体会員 100団体

(同窓会23団体, 後援会9団体, 登録団体68団体)

『広島大学は世界トップ100に入れるのか』 広島大学の新書本が発売されました

『なぜ関西のローカル大学「近大」が、志願者数日本一になったのか』（光文社刊）で話題の作家・コラムニストの山下柚実さんが、今度は広島大学を題材に本を出版しました。タイトルはズバリ、『広島大学は世界トップ100に入れるのか』。スーパーグローバル大学（トップ型）に採択された広島大学の現在と未来を第三者の目でルポしたものです。お近くの書店で販売中です。（定価842円）



ホームカミングデー
会場でも
販売いたします。

「ひろしまフラワーフェスティバル2016」(5月3日~5日)に出展!

5月3日~5日のゴールデンウィークに開催された「第40回ひろしまフラワーフェスティバル」に、今年も広島大学校友会ブース『あさがおひろば』を出展しました。初日だけは雨模様でしたが、3日間で2,200人を超える方々にご来場いただきました。今年も、広島大学・千田塾も参加。「広島大学卒業生のビジネスネットワーク拡大」を目指しました。お立ち寄りくださった皆さま、ありがとうございました。



毎年恒例「先輩見つけ隊」や「サークル体験」、校友会オリジナルうちわに自由に絵を描く「お絵かき TENT」などに加え、今年は島根大学と共同でスタンプラリーを実施しました。



ゴールデンウィークの休日を返上してブースを担当して下さった千田塾の皆さん。初めての出展とあって最初は様子見でしたが、最終日には学生と一緒に呼び込みも。さすが、迫力です。



● 広大でつながろう

広大卒業生を探して絆を結び直す「先輩見つけ隊」、今年初めて出展した「広島大学・千田塾」の活動紹介など、広島大学ネットワーク拡大をめざしました。



● パフォーマンスエリア

大道芸サークル「遊技団」、けん玉サークル「DAMAけん」、マジックサークル「ジャック・オ・ランタン」がそれぞれパフォーマンスを披露しました。



● 懐かしの大学生生活写真展

社会人卒業生から借りた写真も織り交ぜて展示。懐かしそうにゆっくりと眺める人もありました。



● サークル体験ブース

3日は「書道部」による習字体験、5日は「HALSE (Hiroshima Activities for Life Support)」による救急救命体験を開催しました。



「先輩見つけ隊」で撮影させていただいた写真は、第10回広島大学ホームカミングデーに展示します。ぜひお越しください!



校友会学生チームはホームカミングデーでも、卒業生など校友会員の皆さまとの交流をめざして、主会場の広場で各種のおもてなし企画を展開・運営します。ピンクのシャツを目印に声をかけてみてください。